

WEB版「建築討論」レポーター報告書

レポーター

氏名	亀井 暁子
所属	静岡文化芸術大学

建築諸元 わかる範囲でご記入ください

名称	(仮称) 静岡県草薙総合運動場体育館		
設計者	内藤廣建築設計事務所		
所在地	静岡市駿河区栗原 静岡県草薙総合運動場内		
用途	体育館	竣工年月	2015年4月予定
階数	地上 2階	地下 1階	屋上 階
構造種別	鉄筋コンクリート造、木造、鉄骨造		
建築主	静岡県	施工会社	鹿島・木内建設・鈴与建設 JV(建築)
構造設計者	KAP	設備設計者	森村設計

建築概要、特徴、評価する点など (800~1,600字程度)

静岡県草薙総合運動場は、屋内運動場、野球場、陸上競技用等一連の競技施設を備えた総合運動公園である。その中心施設である体育館の建替えである。この建築は、注目されるべき大規模木造建築物として既に建築専門各誌でも取り上げられてはいるが、あえて今回ここに取り上げたい。それは、竣工は、来年4月であるが、現在、地元のニュースで頻繁に取り上げられ、県内の一般の方々における知名度ナンバーワンの建築であるからである。では、なぜ、地元での一般ニュースにおける話題性があるのか。それは、県産材の使用に徹底的にこだわったという点に関係していると思われる。この体育館は、断面360×600、長さ約15mの集成材による大架構が特徴であるが、これらに県産杉材を使用している。地場産材を使用した公共建築物は、近年、各地で試みられ建設されているが、このような大規模建築物において、構造材として強度を確保した県産材を使用するのは、実は簡単な事ではない。今回は、この建築への県産材使用を実現するにあたり、どのような問題と工夫があったのか、製材所へのヒアリングも含めたコメントを入れたい。

メインの部材である、屋根の鉄骨トラスを受けるスギ集成材は、斜材部分だけで使用量として約1200m³、丸太では約4000m³の量となる。今回の設計は、高強度同一等級構成集成材であるが、県内にJAS認定製造会社が無い。であれば、県産材の使用をあきらめる、のではなく、県産材を県外の認定製造会社で加工する。高強度の材料を確保するため、原木からの一括管理を行い、高強度を確保し易い木割りを新たに考案した。また、天竜材は、強度が出やすい材であるといわれているが、製材後の強度測定のみならず、原木段階から強度に関して仕分けを行い、確度を上げる。強度が足りず構造材として使用できないものは、内装材として使用する。これら製材は、とても一社で賄えるものではなく、天竜地区の約15社の製材所が協働であった。地域で総力を挙げて納材した、「オール天竜」の協働の意識は、地元業者にとっても大きな誇りである、との意見がヒアリングした製材所より聞くことができた。

強度を追求していくと、木の質感にも影響がある。今回は、強度を追求していくことが、節のない、均質な材が集まることにつながった。実際、かなり均質な質感の、落ち着いた木の表情となっている。

大規模木造建築物の構造手法や法的実現手法については、一般的に扱われることが多いものの、製材過程や製造工程に関する問題は、必ずしも取り上げられるとは限らない。しかしながら、木は、素材あつてのものであり、建材に至るまでの背景が空間そのものの質感・あらわれに影響することは見落とせないことであると考え。

私が現場を見学した6月末は、屋根をふき始めた段階であり、木の架構の外部から、光が射しこんでいた。工事中しかみることでできない光景であったが、神々しさのある空間であった。完成すればまた異なる表情となるのであろうが、完成が楽しみである。

建築写真（数枚程度）

